

2024年2月のてがたんは申し込み制にて実施しました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回2024年3月のてがたんは、3月9日(土)で、テーマは「みんなの『てが宝』をみつけよう」です。ぜひご参加ください。

3月1日(金)から電話での申し込みを開始いたします。市民スタッフのみなさま、次回のてがたん下見は、3月3日(日)です。

## 2月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館 → 水の館展望台 → 釣り堀裏 → 遊歩道 → けやき広場
- 観察日時と天気：2024年2月10日(土) 10:00~12:00 晴れ
- 参加人数：13名(大人9名、小学生4名)
- 市民スタッフ：6名(小泉伸夫、石原直子、伊東茂子、北村章子、弘實さと子、湯瀬一栄)
- 博物館友の会スタッフ：1名(古澤紀元) ●鳥博職員：1名(岩本二郎)

## 観察した生き物の記録

\*は2月4日の下見だけで見られたもの。

【鳥類】キジ科：キジ／カモ科：カルガモ、コガモ／カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ／ハト科：キジバト／ウ科：カワウ／サギ科：ゴイサギ\*、アオサギ、ダイサギ、コサギ／クイナ科：クイナ、ヒクイナ、オオバン／シギ科：タシギ\*、イソシギ／カモメ科：ユリカモメ、セグロカモメ／ミサゴ科：ミサゴ／タカ科：トビ、ノスリ／カワセミ科：カワセミ／ハヤブサ科：ハヤブサ／モズ科：モズ／カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス／シジュウカラ科：シジュウカラ／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／ウグイス科：ウグイス／エナガ科：エナガ／メジロ科：メジロ／ムクドリ科：ムクドリ／ヒタキ科：ツグミ、イソヒヨドリ／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ／アトリ科：カワラヒワ、シメ\*／ホオジロ科：ホオジロ、アオジ、オオジュリン  
家禽や外来種：コブハクチョウ(カモ科)、ドバト(ハト科)

【昆虫】ハチ目：ニホンミツバチ

【クモ類】タナグモ科：クロヤチグモ

【植物】草の花 /アブラナ科：ナズナ、タネツケバナ／ナデシコ科：オランダミミナグサ／オオバコ科：オオイヌノフグリ／シソ科：ホトケノザ／キク科：ウラジロチチコグサ、ノボロギク、ノゲシ、セイヨウタンポポ

木の花 バラ科：ウメ／カバノキ科：ハンノキ／ツバキ科：サザンカ

# 2月の観察アルバム



今回のテーマは「古い地図を歩く」でした。最初に水の館の展望台から手賀沼を見渡し、古い地図と見比べながら、どのあたりが昔は沼だったのかを確認しました。その後、遊歩道を歩きながら、生き物を探しました。暖かな日差しの中、花が咲いている様子だけでなく、花々を飛び回るニホンミツバチが花粉をつけて戻ってきた様子も観察できました。



今月の案内人

小泉伸夫さん



①地面すれすれに咲いていたセイヨウタンポポの花



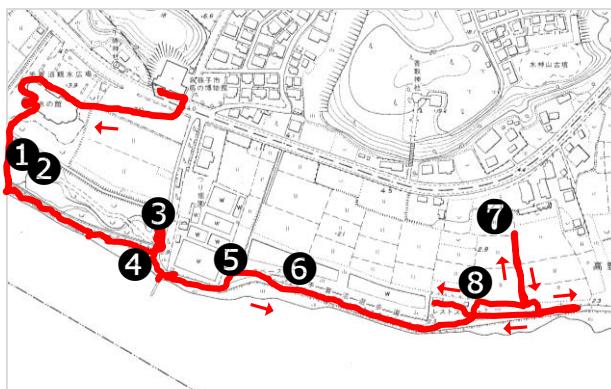
②オオイヌノフグリの小さな花



③ハンノキの赤い花



④ヨシのてっぺんにとまったオオジュリン



歩いたルートと観察した生き物



⑤地上で餌を探していたアオジ



⑥脚に花粉をつけて巣に戻ったニホンミツバチ



⑦蓮田を歩き回っていたセグロセキレイ



⑧土手の上の木から周囲を見渡すモズ

## 今月の鳥 メジロ (スズメ目メジロ科)

①の写真は、鳥の博物館の向かいにあるサザンカで撮影しました。3つ並んだ穴(白い矢印)は前を向いた3本のあしゆびの爪跡です。メジロは体が小さく、サザンカの花にとまって蜜を吸うことができます。また、舌は先が細く分かれていて、まるで墨汁を含んだ筆のように、なめた蜜をたくわえることができます。メジロが蜜を吸うために嘴を花の奥まで差し込むと、おしべが顔に当たり、顔に花粉が付着します。その顔をまた別の花に差し込むと、めしべにも顔が当たるので、花粉の運び役として受粉を助けることができます。花びらに残った爪跡は、メジロがどの花にとまったのかを教えてくれます。この話を踏まえ、改めて探してみると、そこら中のサザンカやツバキから爪跡を見つけることができます。皆さんも是非、探してみてください。



花びらに空いた穴



ウメから蜜を吸うメジロ